

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370950

研究課題名(和文) グローバル化にともなう公共空間の変容と共同体の再編に関する文化人類学的研究

研究課題名(英文) Change of Public Space and Restructuring of Communities in Globalization

研究代表者

岩谷 彩子 (IWATANI, AYAKO)

京都大学・地球環境学堂・准教授

研究者番号：90469205

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、アレント、ルフェーブルを中心とする公共空間に関する議論をふまえて、世界の異なる都市(パリ、アテネ、イスタンブル、アフマダーバード)における公共空間の現状について、そこを生業の場としてきたロマ/「ジプシー」、露天商の視点から明らかにした。4都市に共通してジェントリフィケーションは進行しており、パリでは移民(ロマ)が情報交換を行ってきた公共空間は消滅していた。しかしアフマダーバードでは、公共空間を流用しものの流通をうながすことで異なるコミュニティを結びつけ、新たな商空間を創出する役割を露天商が果たしており、アテネ、イスタンブルでも「ジプシー」のネットワークが公共空間の持続を支えていた。

研究成果の概要(英文)：This research, based on discussions on public space led by Arendt and Lefebvre, attempted to examine the present public space in different cities in the world (Paris, Athens, Istanbul and Ahmedabad) from the viewpoints of the Roma/ "Gypsies" and the street vendors who have worked there. Gentrification goes on in all the four cities; in Paris, migrant workers (the Roma), who had exchanged information among them in public space, were driven out from there. However, in Ahmedabad, street vendors play a role of connecting different communities and creating new commercial space by using public space temporarily to activate circulation of goods. In Athens and Istanbul, too, networks of street vendors and "Gypsy" communities contribute to keeping public space by building relationships with passengers and other business people.

研究分野：文化人類学

キーワード：公共空間 グローバリゼーション ジェントリフィケーション ロマ/「ジプシー」 露天商 道 共同体 ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

申請者が研究を続けてきた商業移動民やロマ/「ジプシー」と呼ばれる人々の生業の場である公共空間は、グローバル化とともに均質的で私有化され、排除をともなう新たな階層間の係争の場となりつつある。本研究はそのような現代的な状況をふまえて、いかに公共空間を生活の場としてきた人びとがコミュニティを再編しているのか、異なる地域の公共空間を事例に検討することを目的としている。1990年代以降、欧米の都市ではグローバル化にともなうジェントリフィケーションやゲートド・コミュニティの出現が問題となり、公共圏[ハーバース 1994]や公共空間に関する議論[アレント 1994; ルフェブル 2000; ソジャ 2005]が活発に展開されてきた。これら「空間論的転回」とも呼ばれる一連の議論は、非西洋地域でも検討されてきたが[Kaviraj 1997; Brosius 2010]、ここでは公共空間の排除と包摂の問題、つまり公共空間の「公共性」の問題が中心であり、空間そのものが焦点化されてこなかった[Law and Smith 2005]。2000年代以降のインフォーマルセクターによる公共空間の利用に関する地域横断的な研究[Brown 2006; Bhowmik 2010]は参考になるが、公共空間の歴史の変容や共同体再編の実態、グローバル資本の国家間移動の問題については検討の余地を残している。さらに従来の研究では、空間への帰属をめぐる情動や身体の問題は等閑視されがちであった。とりわけ申請者がたずさわってきたロマや移動民の場合、居住地や生業の場からの強制立ち退きが差別や排除として指摘されることはあっても、不安定で流動的な生活環境で生まれる安定的な帰属や主体への希求は移動という生活形態が本質化されることで焦点化されてこなかった[Theodosiou 2003; 岩谷 2013]

そこで、本研究は(1)空間変容から共同体の再編を問う視点、(2)グローバル資本の国家間移動、(3)空間への帰属をめぐる情動や身体の問題、に着目し公共空間と共同体の再編に関する現状と課題を解明する必要性に立脚して開始された。

2. 研究の目的

本研究の目的は、グローバルな人と資本の流入が加速することで変容している公共空間とそこからの排除と包摂の問題について、公共空間の成立と進展の歴史が異なる4都市(アテネ、パリ、イスタンブール、アフマダーバード)を例に、(1)公共空間をめぐる概念とその地域による違い、(2)公共空間を生活の場としてきた人々が媒介する人とモノのネットワーク、(3)グローバル化によって変容する公共空間の実態、(4)空間への帰属をめぐる情動と身体の問題、について、現地調査と歴史資料・文献の検討によって明らかにすることである。都市によって異なる展開を見せる公共空間の変容と共同体再編

の要因を明らかにし、都市の公共空間がいかに多様性を確保することが可能か、その方策を提示することを目指す。

3. 研究の方法

(1)公共空間をめぐる概念と地域による違いについて、哲学・地理学・人類学・社会学の文献をレビューし、先行研究を整理する、(2)異なる歴史と都市政策をもつヨーロッパとアジアの4都市(アテネ、パリ、イスタンブール、アフマダーバード)の公共空間をめぐる諸政策、特定の広場や路上市の成立過程と1990年代以降の空間再編(再開発、ジェントリフィケーション、強制移住)の現状を文献および自治体や開発業者への聞き取りから明らかにする、(3)(2)の公共空間を生業の場としてきた人々(ロマ/「ジプシー」、ヴァグリ、露天商、出稼ぎ民)の空間利用と帰属意識、公共空間の変容が及ぼす共同体への影響について現地調査により明らかにする。

4. 研究成果

調査を行った4都市で共通してジェントリフィケーションと土地の資産化は生じていたが、公共空間の生成という側面で大きな違いが見られた。

(1)パリ...政府の移民統制を受けて、かつて移民たちによる情報交換の場として機能していた郊外の広場には移民たちの姿はなく、(移民)ロマは本国へ送還されたり郊外の集住地へ移住させられたりしていた。しかし、フランスでの出稼ぎは東欧のロマの私的空間(家屋の新築)を生み出してもおり、地域を超えて人とモノがフローすることで、共同体の再編を生み出しているともいえる。

(2)アテネ...公共空間における生業は行政の許可を必要とするが統制は緩く、露天商間での空間調整や縄張り意識、住人や通行人、商店との関係の方がより彼らの空間利用に影響を与えていた。「ジプシー」は露天商、スクラップ収集やアンティークの売買などの生業を公共空間で行ってきたが、トルコ国境での物流制限、スクラップ収集業への移民の参入を受け、公共空間での生業は困難になってきている。「ジプシー」下位集団の違いが扱うモノとネットワークの違いを構成している。

(3)イスタンブール...都市中心部のジェントリフィケーションと行政による公共空間の管理が甚だしく、公共空間からの露天商やアーティストの排除もロマの生活に影響を与えている。しかし、国家および自治体(シリア難民受け入れ、票田としてのロマの扱い)と開発業者との目的の齟齬が結果的にロマの生業を持続させている面もあり、公共空間におけるロマの位置づけは流動的である。アテネ同様に「ジプシー」間のネットワークが公共空間での生業(花屋、露天商)を支えており、公共空間における異なる人々(トルコ

人、クルド人)との情動的なつながりも彼らの生業の持続に関わっていた。

(4) アフマダーバード...旧市街の再開発とジェントリフィケーションによって露天商(ヴァグリ)は公共空間へのアクセスを制限され始めている。しかし彼らは既存のコミュニティのネットワークを利用する形で、制限されるようになった公共空間のアクセスを部分的に流用しながら、ゲーテッド・コミュニティやジェントリファイされた空間におけるもの(古着、スクラップ)の加工・流通に従事している。また、彼らがものを一時的に集積させる公共空間を介して、地域や階層、国境を超えて新たなもののフローが生まれているとともに、そのフローに従事する新たなコミュニティの空間(例:他州から流入したムスリム)を生んでいた。このような動態から公共空間の変容をとらえることが可能であり、コミュニティの結びつきも活発化していた。

以上の現地調査での知見を通して、第一に、公共空間の資産化や私有化より、ものをフローさせる人々のネットワークから公共空間の現状をとらえる重要性が明らかになった。そうしたネットワークから見えてくるものは、公共空間を人ともものが経路することで拡張する公共空間がもつひらかれた空間性であり、私的空間も含めた空間の連関によって生み出される異なる人々の結びつきである。第二に、公共空間におけるもののフローを担っていたのは、当該社会において周縁的な存在(移民、移動民、「ジブシー」エスニック・マイノリティ)であった。「ジブシー」集団内の下位集団ごとの生業やネットワークの違いはある程度明らかになったものの、相互の重なりあいや協働についてはさらなる把握が必要であり、公共空間の担い手側の包摂と排除についても検討する必要がある。第三に、4都市において「ジブシー」やロマ、移動民の公共空間における生業がグローバル化にともなう都市空間の資産化によって制約されている現状は共通していたが、公共空間における彼ら同士、同じ空間で生業を営む異なるマイノリティや地域の人々との身体的・情動的なつながりには違いがあり、それが彼らの生業の持続と公共空間のあり方を差異づけているのではないかとする仮説的結論に至った。なお、第三の点と関連して、公共空間をめぐるメディア表象のアクターへの影響についてはさらなる調査が必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

(1) 岩谷彩子、「序 グローバリゼーションと公共空間の変容」、『文化人類学』、査読有、82(2)、2017年、151 - 162頁。

(2) 岩谷彩子、「古着のフローが生み出す公共空間 インド、アフマダーバードの都市開発の事例より」、『文化人類学』、査読有、82(2)、2017年、213-232頁。

[学会発表](計 7 件)

(1) 岩谷彩子、「布のフローがひらく公共空間 インド、アフマダーバードの古着の流通から見えてくるもの」、『2017年度MINDAS「布班」第2回研究会、2018年2月13日、国立民族学博物館。

(2) Ayako Iwatani, "Living on the Surface: Romani Palaces enfolding Unspoken Past and Displayed Present in Romania", The Skills of Feeling with the World-Third Workshop, "Embodied Memories and Affective Imagination Skills", 2018年2月4日、立命館大学。

(3) 岩谷彩子、「ルーマニアのロマの家屋にやどる歴史 異なる移動の痕跡としての住居」、『第23回口マ学研究会、2017年12月10日、大阪産業大学梅田サテライトキャンパス。

(4) 岩谷彩子、「生産的な廃棄物 インドの古着と廃品の流通から見えてくるもの」、『2015年度第4回「『もの』の人類学的研究(2) 人間/非人間のダイナミクス」研究会、2016年2月13日、東京外国語大学。

(5) 岩谷彩子、「インドの<道>にみる公共空間 露天商が媒介する人・もの・ローカリティ」、『京都人類学研究会、2015年11月20日、京都大学。

(6) 岩谷彩子、「起源と帰属 起源を逸失しつづけるロマの帰属意識をめぐって」、『<間にあるもの>の現代史 ロシア・中東・東アジアにおける仲介人と境界人』シンポジウム、2015年3月11日、埼玉大学東京ステーションカレッジ。

(7) Ayako Iwatani, "Consuming Gentrified Locality: Urban Planning of Ahmedabad and the Future of Street Vendors", Panel: "Re-examining 'Development' in Urban Life: The Case of Gujarat", 日本南アジア学会第27回全国大会、2014年9月28日、大東文化大学。

[図書](計 4 件)

(1) Ikuya Tokoro and Kaori Kawai (eds), *An Anthropology of Things* (Ayako Iwatani, Chapter 9, "Mono that show and Tempt: Contingency by Fortune-Tellers", pp.189-204), Melbourne: Trans Pacific Press, 2018年, 420頁。

(2) Minoru Mio and Abhijit Dasgupta (eds), *Rethinking Social Exclusion in India: Castes, Communities and the State* (Ayako Iwatani, Chapter 2, "Streets as Space of Social Inclusion and Exclusion: the Case of Street Vendors in Ahmadabad", pp.30-52), London: Routledge, 2017年, 174

頁。

(3) 齊藤綾子・竹沢泰子編、『人種神話を解体する 第1巻 Invisibility 「見えない人種」の表象』(岩谷彩子、第6章「『移動民族』としてのロマと新人種主義 ヨーロッパ域内の人の移動をめぐるポリテイクス」、189-122 頁)、東京大学出版会、2016 年、296 頁。

(4) 岡橋秀典・友澤和夫編、『現代インド 4 台頭する新経済空間』(岩谷彩子、第10章「変容する都市公共空間と露天商 アフマダーバードにおける都市整備とローカルな空間利用」、249-272 頁)、東京大学出版会、2015 年、344 頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

(1) 岩谷彩子、事典項目、「廃品回収」、『インド文化事典』(インド文化事典編集委員会編) 丸善出版、2018 年、672-673 頁。

(2) 岩谷彩子、事典項目、「露店」、『インド文化事典』(インド文化事典編集委員会編) 丸善出版、2018 年、664-665 頁。

(3) 岩谷彩子、事典項目、「クリミナル・トライブの誕生」、2018 年、『インド文化事典』(インド文化事典編集委員会編) 丸善出版、2018 年、50-51 頁。

(4) 岩谷彩子、事典項目、「民族とカースト」、『世界民族百科事典』(国立民族博物館編) 丸善出版、2014 年、72-73 頁。

(5) 岩谷彩子、ウェブ・ジャーナル書評、「田村うらら著『トルコ絨毯が織りなす社会生活 グローバルに流通するモノをめぐる民族誌』」、2014 年、『Contact Zone』(<http://hdl.handle.net/2433/198473>) 第6号、239-245 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者 岩谷 彩子 (IWATANI AYAKO)

京都大学・地球環境学堂・准教授
研究者番号：90469205

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：

(4) 研究協力者
()